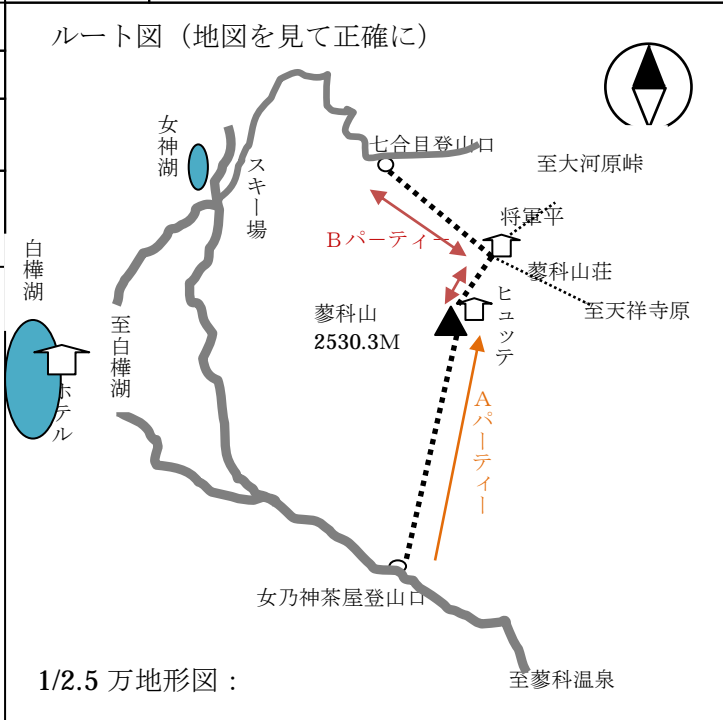


5 月度 例会 個人 山行報告書		報告者	佐溝直彦	参加 メンバー	CL 佐溝直彦 SL 油井武 SL 塚本英吾・青山武。 不破孝浩・三矢十三世・青柳 岩崎芳彦・津上吉五郎・牧野勤
		報告日	5/18		
山城	北八ヶ岳	山行日	12年 5月 14日 (月) ~		
山名	蓼科山		5月 15日 (火)		
山行目的	残雪の山を楽しむ		コースタイム (天候: 天気図記号)		

配布先
総会参加数
山行: 1
リーダー
原紙:
会事務局



天候: 14日 晴れ
女乃神茶屋登山口気温 14℃
山頂気温 17℃ (2~3日前には降雪あり)
15日 霧雨
白樺湖畔 7時気温 8℃

14日
刈谷 5:30 発 (車は2台)
女乃神茶屋 9:15 着・A隊は駐車。
B隊は白樺高原まで移動し七合目で駐車。
A隊油井CL・6名
女乃神茶屋登山口 9:45 スタート~2110M地点 11:10
~山頂 13:30。
B隊塚本CL・4名: 七合目登山口 10:03 スタート~将
軍平 12:10~山頂 12:50。
(青柳さんは体体温存の為蓼科山荘までの行動)

頂上で両隊合流・塚本CL 13:50 下山開始~七合目登
山口着 15:35。
車待ちの間 4名は自然園付近までクールダウン歩行。
白樺湖ビューホテル泊

15日
悪天候の為予定の行動は中止して帰路についた。
ビューホテル発 10:00~刈谷着 14:30

〈山行報告〉 GWに発生した小蓮華山での熟年パーティ山岳遭難は縦の木会春山山行に対する警鐘と受けとめ、今回の山行メンバーへの意識付けの意味で春山装備について再徹底して当日を迎えた。心配した天気も大丈夫でA隊(6名)とB隊(4名)は定刻に各登山口をスタートした。登り記録は筆者(A隊)の行動です・ピーナスラインから見上げた蓼科山南面は残雪が見えず4月偵察(油井さん談)以後急速に雪解けが進んでいる様だ、芽吹き始めた樹林帯の中、緩急の繰り返しの直登コースを油井CLトップで超ポレポレペースで会話を楽しみ・時には振り返り真っ白な仙丈・甲斐駒を望みながら進む、2,200M辺りからは木陰で少し残雪が現れたがアイゼンは山頂まで不要であった、3時間45分かけて登ってきたのでメンバーは余裕の顔、山頂では予定通りB隊が迎えて呉れた、山頂部岩の上も雪は消えている。眺望は360度で八ッの峰々・南ア・中ア・北ア・浅間山などしっかり楽しめた。計画より少し遅れていたのが全員七合目に降りる事に変更し塚本CLのトップで下山開始、山頂ヒュッテ前でアイゼン装着、残雪たっぷりの急斜面を將軍平目指し慎重に下る・ロープが垂らしてあるし雪も腐っているので心配ない、蓼科山荘前で青柳さんとも再会し10名が揃う、2,000M付近までは雪道だが氷結部は部分的、アイゼンを装着しているのでザレ場の夏道より滑らず歩き易い、全員元気に万歳し下山した(写真上)。車が2台だったので2コースから登る事が出来、変化を持たせる事が出来て良かった。

会計(筆者)として有難かったのは①車を2台にした事②ホテルは飲み放題プランで酒代が節約出来た事。結果・会費が¥10,700でほぼ満足して頂けた事です。今回のゲスト参加は牧野氏・津上氏でした。

山行サポートの関係者・山行メンバーの皆様のご協力に感謝です、有難う御座いました。下記は《油井SLの詩と所見》シラビソの下る雪道
氷みち つめを効かせて 半歩づつゆく (作・油井氏)



〈リーダー所見〉 所が*アイゼンを外した途端ツルリンコ隠れ氷に足を掬われる(緊張の開放時ヒヤリハット・お互い気をつけましょう)。
年々高齢者の山岳遭難事故が増加しており、先のGWでも死亡事故が多発の折から、今回はメンバー全員がそれなりのトレーニングと事前準備をして臨んだ。お陰さまで全員無事で楽しい登山をする事が出来たのは偏に関係者のご支援の賜物と感謝の念に堪えない・ありがとうございました。



確認
(リーダー)
佐
12/5/18
溝
作成
(報告者)
佐
12/5/18
溝